

お話しと朗読

- ・感染症の歴史と今後
- ・感染症学者としてデビューした野口英世の当地金沢での活躍
- ・息子の早期帰国を乞う野口の母「シカ」の手紙

(お話1) 世界史を変えた感染症と今後

林 俊治氏

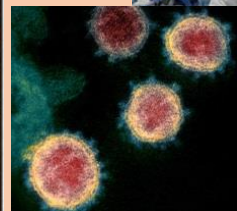
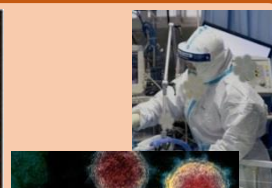
(北里大学医学部教授 微生物学)

人類を脅かしている感染症は今回に限らず世界史を大きく変えた例がいくつもあること、また今後どう付き合うかなどを、切手の例なども交えて、わかりやすくお話します。



ペスト菌

嘴型の防護マスクでペスト患者に向かう17世紀の医師(林先生の切手コレクションから)



現在の防護服と新型コロナウイルス

(お話2) 感染症学者「野口英世」の横浜金沢での活躍と英世の母

中村澄夫氏

(神奈川歯科大学名誉教授 生物学)

野口英世は、長浜検疫所(金沢区長浜)で医官補として短期間でしたが活躍し、その後世界へとはばたき、感染症学者として名を成しました。長浜時代の野口と帰国前後の母の姿を紹介します。



長浜検疫所に勤務時代の野口英世(明治32年22才)



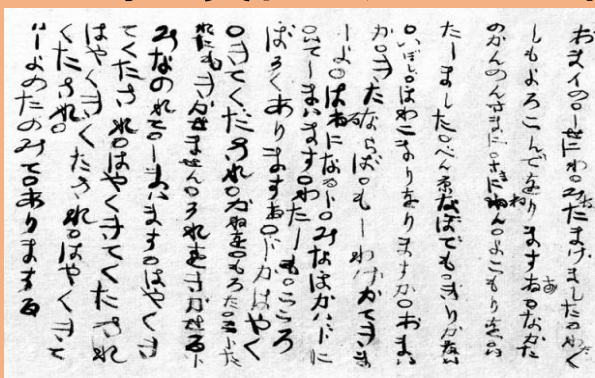
15年ぶりの帰国時に母を伴った東京見物での記念写真(大正4年39歳)

(朗読) 母「シカ」が息子の野口英世に宛てた手紙

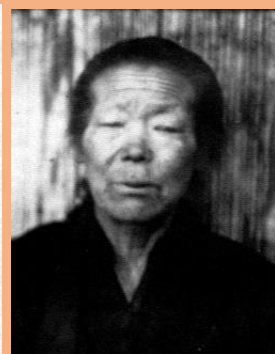
橋 有美氏

(フリーアナウンサー、朗読「たちばな」「紅(くれない)」主宰)

野口の母「シカ」がアメリカにいる息子に宛てた たどたどしい手紙とそれに同封の年老いてきた母の姿写真が残っています。その手紙の朗読を通していつの世も変わらぬ母の思いに迫ります。



母「シカ」の手紙(前半部分)と同封された「シカ」の写真
この手紙と写真を見て野口英世は帰国を決意(大正4年)



☆日時: 2022年2月12日(土) 13:00~16:30(開場 12:20)

☆会場: 金沢公会堂ホール ☆募集: 300名(申込先着順)

☆参加費: 500円(会場で) ☆申込: 往復ハガキ/電子メール(詳細裏面)

主催: NPO法人 野口英世よこはま顕彰会

共催: 横浜金沢文化協会 後援: 横浜市金沢区役所

